

県立高校再編整備計画(平成22年度～平成25年度計画(案))
に対するパブリック・コメントの概要

1 パブリック・コメントの実施状況

(1) 募集期間

平成22年7月15日(木)から平成22年8月16日(月)まで

(2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開コーナー、各地方県民相談室、各県立高等学校で自由に閲覧できるようにしました。

(3) 意見提出方法等

郵送、ファクシミリ、電子メールにより意見を募集しました。

2 意見の件数

32人 69件

3 提出された意見及びこれに対する考え方

表中に(2件)とあるのは、同様の意見が2件あったことを表す。

(1) 県立高校再編整備計画(平成22年度~平成25年度計画(案))に係る意見(53件)

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>1 再編整備 (1) 再編統合(41件)</p>	
<p>【美祢高校の再編統合に係る意見】</p>	
<p>美祢高校の近年の入学者数からすれば、近隣校との統合案が示されても仕方がない状況である。(4件)</p>	<p>これまで入学者数が定員を大幅に割り込む状況が続いており、今後とも、生徒にとって魅力ある学校づくりを進めるとともに、より質の高い高校教育の提供ができるよう、入学状況や地域の生徒の通学状況などを見ながら、青嶺高校への再編統合を検討します。</p>
<p>これから教育を受ける子どもたちのことをまず第一に考え、青嶺高校へ統合することはよいと思う。</p>	
<p>美祢市は小中学校も小規模であり、子どもがこのまま小規模の高校で生活して広い社会に出るのは、親として不安である。いろいろな生徒と人間関係を磨くために、少しでも規模の大きな学校があるとよい。</p>	
<p>これから高校に入学し、社会に出て行く子どもたちのことを考えて高校の在り方を考えてほしい。そのためには統廃合もやむを得ない。</p>	
<p>美祢高校が青嶺高校に統合されれば、美祢市の高校教育機能が集中化され、よりよい教育ができていくと思う。</p>	
<p>青嶺高校と一緒にあって、部活動が強くなっていくといいと思う。</p>	

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>大幅に定員割れの美祢高校で、どれだけ競争心を持って勉強や部活動ができるのか、不安を感じる。</p>	
<p>子どもたちは大人数の中で競い合って成長するものだと思う。美祢市にひとつの大きな学校が誕生して、活気のある高校ができることを期待している。</p>	
<p>高校の存続について、単なる行政の効果や経済的な理由で決定するのは、教育の本質を履き違えている。(2件)</p>	
<p>小規模校をいかに運営するかを考え、美祢高校の復活に向けた支援をするのが行政の仕事ではないか。再編統合はそれからでも遅くはない。(2件)</p>	<p>再編整備にあたっては、何よりもまず、主役である生徒に質の高い教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。</p> <p>特色ある学校づくりを推進し、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開、多様な人格とふれ合うことによる豊かな人間性や社会性の育成など、高校教育の質をより高めていくためには、望ましい学校規模の確保をめざし、再編整備を進めていくことが必要であると考えています。</p>
<p>地域の実状・生徒の立場で、地域の発展や子どもの未来を保障する立場で判断してほしい。</p>	
<p>受験競争的な高校教育とは別に、地域に密着した人材育成型教育の必要性から、少人数教育機関があってもよいと思う。</p>	
<p>県下の地域バランスを考え、分校化もやむなしだが、校舎存続の方向が必要である。</p>	
<p>美祢青嶺高校として、秋吉校舎・大嶺校舎にしてはどうか。</p>	
<p>廃校にしなくてもよい方策を考えるのが県の行政手腕ではないか。</p>	
<p>入学者が少ないから廃校という考え方は、あまりにも知恵のない悲しい方策である。</p>	
<p>美祢高校の中長期的な発展を考え、また、美祢市の将来を考えたとき、視点を変えた新構想の検討が重要ではないか。具体的には、美祢高校の再生のために、外国人生徒を広くアジア諸国から受け入れてはどうか。(3件)</p>	<p>今後とも、生徒にとって魅力ある学校づくりを進めるとともに、より質の高い高校教育の提供ができるよう、入学状況や地域の生徒の通学状況などを見ながら、青嶺高校への再編統合を検討します。</p>
<p>統廃合を考える前に、旧美祢郡内3中学校からの入学者数を確保することが先決ではないか。</p>	

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>美祢高校の近年の入学者数からすれば、近隣校との統合案が示されても仕方がないが、今回の再編統合案の提示は、地域住民に対する刺激効果があったと想像されることから、来年度以降の入学希望者数は増加に転ずるのではないかと思うので、分校化も含めて、数年後に改めて検討すべきである。</p>	<p>子どもたちにできるだけ早く、より質の高い高校教育を提供することが大切であると考えており、本計画は、特色ある学校づくりの推進、これまでの入学者数の状況及び今後の入学者数の見込み、さらに、中学校卒業生数の減少状況などの観点から総合的に検討したものです。</p>
<p>実質廃校となる場合は、他地域に比して、この地域の子どもたちの教育の機会が不利にならないよう慎重に検討してほしい。</p>	
<p>美祢高校の存続が地域にもたらす影響について、地域が考える今しばらくの時間的猶予をいただき、納得の上で次のステップに進むことを望む。</p>	
<p>連携型中高一貫教育の検証が必要であり、この中高一貫教育を一旦止めてから、美祢高校の動向を見て、それから再編統合を検討すべきではないか。</p>	
<p>家庭への負担を軽減するためにも、徒歩や自転車で通学できる高校を地域に残してほしい。(2件)</p>	
<p>地域の意見や通学の状況など、地域の実状に即して状況を見てほしい。</p>	<p>本計画は、生徒の通学状況等を総合的に検討し、策定したものであり、再編整備の推進にあたっては、通学の便宜が図れるよう関係交通機関等への働きかけなどの支援を行います。</p>
<p>青嶺高校にバス通学ができるよう、関係機関に強く働きかけてほしい。</p>	
<p>高校生活を有意義に過ごすためには、勉強もさることながら、部活動など放課後の活動も大変重要である。そのためには、通学の利便性が確保されていることが大切だと思う。</p>	
<p>高校がなくなると地域はますます疲弊し、地域住民の地域活性化の意欲を損なうことにもなりかねないし、イメージダウンにもなる。(2件)</p>	
<p>再編統合が実行されれば、旧美祢郡の地域社会の衰退を著しく加速する結果となることが自明である。地域社会の教育、地域行政の在り方等を総合的に考え、真に地域住民の幸福を実現できるような県行政を希望する。</p>	

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>美祢高校に今求められるのは、人としての生き方を学べる学校である。往時の美祢高校に戻すことができれば、地方高校の新しい在り方として耳目を集めることは間違いない。</p>	<p>具体的な学校づくり等については、小・中・高等学校の保護者など、広く関係者の意見も聴きながら検討を進めます。</p>
<p>今までの統合では、それまでの学校の学科や特色を残し、校名を替え、校歌も新しくし、それぞれの学校の特色・伝統を大切にしてきたが、今回の場合、どのようになるか。</p>	
<p>美祢高校が今まで地域で果たしてきた役割について、地理的にも遠い青嶺高校でできるとは考えられない。</p>	
<p>応募状況から統合は賛成であるが、「美祢」の名前が入った学校名にしてほしい。</p>	
<p>1 再編整備 (2) 工業科の設置について(3件)</p>	
<p>【防府商業高校への工業科設置に係る意見】</p>	
<p>商業科に工業科を併設することはよいと思う。</p>	<p>地域産業のニーズや工業教育機能の地域バランス等を踏まえ、防府商業高校に新たに工業科(機械系学科)を設置します。 また、具体的な学校づくり等については、小・中・高等学校の保護者など、広く関係者の意見も聴きながら検討を進めます。</p>
<p>工業科を新設するなら、自動車に関するカリキュラムも組んではどうか。</p>	
<p>大学への進学率が上昇し、高校卒の就職が厳しくなる中、職業科を新設することは時代に逆行している。また、近隣の周南市には2校、下松市に1校あり、これ以上の増設は無駄である。</p>	

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>1 再編整備 (3) 分校化について (3件)</p>	
<p>【徳山北高校の分校化に係る意見】</p>	
<p>周南市内の教育機能の分散化をはかる点において、現時点ではよい方向だと思う。</p>	<p>本計画は、生徒の通学状況等を総合的に検討し、策定したものであり、入学状況などを見ながら、最小学校規模(1学年2学級)の確保が見込まれない場合には、分校化に取り組みます。</p>
<p>徳山北高校と鹿野分校の間は、スクールバスでも十分に対応できる距離であり、鹿野と徳山北のどちらかひとつでよいと思う。</p>	
<p>【佐波高校の分校化に係る意見】</p>	
<p>現状では定員割れが続いており、やむなしと思う。</p>	<p>入学状況などを見ながら、最小学校規模(1学年2学級)の確保が見込まれない場合には、分校化に取り組みます。</p>
<p>1 再編整備 (4) 定時制課程について (6件)</p>	
<p>【定時制課程の再編整備に係る意見】</p>	
<p>定時制課程は宇部や周南に多いが、定時制専門で、地域に一つでよいと思う。(2件)</p>	<p>近隣の学校間で段階的な統合を図るなど、地域バランスに配慮した適切な配置の検討を進めます。</p>
<p>定時制の増設こそ必要であると思う。</p>	
<p>山陰には定時制課程がまったくないから、分校的な感じで作ってもよいのではないか。</p>	
<p>他県のように昼間定時制などを導入されてはどうか。</p>	<p>生徒の多様なニーズに対応した学びの場の提供に努め、定時制課程における充実した教育の展開を図ります。</p>
<p>再編の前に定員を満たすような魅力ある学校づくりが必要であり、定時制の再編には異議がある。</p>	

(2) その他の意見(16件)

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

再編整備全般に係る意見(13件)
再編整備についての地域住民への説明会を開催するなどの対応が必要である。(3件)
計画(案)でよいと思う。
再編整備の成果と課題を検証した上で、集団の規模と質を重視すること、アドミッション・ポリシーを明確にすること、人事の刷新を図ること、について十分検討することを前提に、県立高校再編整備計画が、本県の“高校教育活性化の起爆剤”“教育改革推進の牽引力”として機能することに期待を寄せている。
分校化や統合は、各地域事情に鑑みて、必要な処置を実施してほしい。
地域に根付いている学校を廃校にしてしまうことは、生徒の通学を困難にし、その地域に住む生徒の学習権を奪うことになる。
より多くの受験ができるよう校区をなくす方向でもよいと思う。受験も一律の一発勝負でなく、より多くの判断基準を設ければよい。その結果としての淘汰・統廃合も結構である。
少子化を理由に、子どもたちの教育の場を減らすことについては、県民として納得できない。
未来の山口県を担うのは子どもたちであり、その子どもたちの未来を教育者が放棄し、切り捨てることのないよう、子どもたちの立場に立って再編計画を抜本的に見直すべきである。
一人ひとりの生徒にゆきとどいた教育を行うためには、少人数学級の実施をまず生徒が減少している地域の学校で実施すべきであり、高校再編整備そのものを中止すべきである。
より質の高い教育が提供できているかどうか十分な検証をすべきである。
山口県は、子どもたちのために、特に地理的条件も考えて教育の場を提供することにも心を砕かなくてはならないと思う。交通機関の不便さは、そのまま、子どもたちの通学条件、学校選びにかかわってくる問題である。
その他の意見(3件)
一度受け入れた子どもたちには、しっかりと教育して、実社会に出て即戦力となるように責任をもってほしい。
公立高校は、しっかりとしたビジョンを持ち時代を担うことのできる子どもたちを育ててほしい。
県内の工業高校の学科は、県民に違いがわからない学科名が多いので、わかるようにしてほしい。